



あるじでえ

No.42

世田谷区教育委員会 民家園係
〒157-0067 世田谷区喜多見 5-27-14◎ 次大夫堀公園民家園
☎ 03 (3417) 8492◎ 岡本公園民家園
☎ 03 (3709) 6959

平成17年 3月15日 発行

旧谷岡家住宅表門

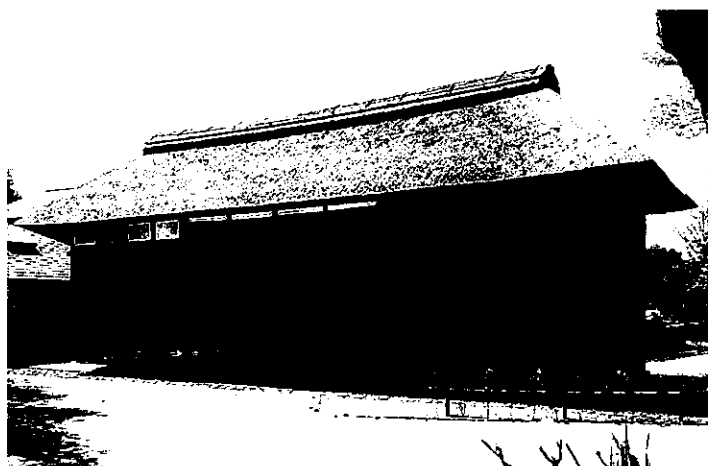


写真1 旧谷岡家住宅表門外観

— 一区指定有形文化財第27号 —

○文化財指定年月日

平成3年3月24日

○旧所在地

世田谷区深沢5丁目

○復元場所

区立次大夫堀公園民家園

○工事期間

平成15年7月～平成16年3月

○規模

桁行 6.70間 (12.18m)

梁行 2.00間 (3.63m)

総高 6.15m

○延床面積

13.39坪 (44.28㎡)

旧谷岡家住宅表門は、天保9年(1838)から平成2年(1990)まで、世田谷区深沢の谷岡家屋敷内に建っていました。

江戸時代、谷岡家では代々当主が儀左衛門を名乗り、享和4年(1804)には村の年寄役^{註1}を勤めていました。

さて、この表門は^{しくぞうひらやだてとせむねづく}木造平屋建寄棟造り茅葺きの建物で、長屋門形式^{註2}をとっています。

門扉脇の部屋については、谷岡家では正面に向かって右手のそれを「ドジ」、左手のそれを「クラ」と呼んでいました。ドジは土間で農具や大工道具をしまう納屋として、クラは板敷きで米などを保管する穀倉として使わ

れていました。

この表門を当民家園へ移築する際、建物は丁寧に解体され、部材や建物の変遷などに関する調査が行われました。その際に判明し、考察されたことをご紹介します。

まず、門扉脇2本の親柱ほぞ^{註3}から、^{ぼくしよめい}墨書銘が発見されました。ドジ側には「天保九成年(1838)三月廿六日再建 谷岡儀左衛門 源長榮 伴同喜八 源重富」と、クラ側には「大工 深沢邑 藤吉 馬引邑 秀五郎」と書かれていました。このことにより天保9年3月26日に、当時の当主とその息子の意によってこの建物が再建され、その工事は地場の大

工が行ったことがわかりました。

次に部材をみると、必要のない位置に貫などの痕跡が残っていました。このことから元々、他の建物で使っていた部材を再利用し、建物を造ったと考えられました。

最後に、この門はクラからドジまでを一つの大屋根とする寄棟造りですが、クラとドジの通路境に扱首尻^{註4}を受けていた跡が発見されました。このことより、元はクラとドジは別々の屋根をかけていたことが示されました。他にも、柱ほぞの番付^{註5}が連続しないことや各部屋の意匠に統一性がなく、一つの建物としては不自然な点が認められました。具体的には、クラ側正面は床の位置が少し高くなり、壁は豎羽目板^{註6}が張られ上部分のみ土壁で漆喰仕上げ^{註7}となっています。しかし、ドジ側正面は梁の真下から足元まで下見板張り^{註8}で、クラ側とは明らかに体裁が異なっているのです。

以上のことから、二つの部屋は元々別棟で、番付を検討した結果、クラは2間×5間の長方形平面で寄棟屋根の建物、ドジは2間×2間の正方形平面で方形屋根の建物であったと考察されました。

その後、クラをドジ同様2間×2間の正方形平面に縮小し、ドジ側に出格子を、この二

つの建物の間に門扉などをつけ通路部分とし、天保9年、長屋門として改築したと考えられています。

武家の建築様式であった長屋門は、名主階層でも特に許された場合にのみ建築することができたものです。そのような中で、谷岡家住宅表門は別棟であった建物や転用材を用いて改築した例として建築史的に貴重な建物といえます。

また、区内に現存する数少ない長屋門3棟の一つでもあります。残りの2棟は大場家住宅表門（世田谷1丁目。宝暦3年（1753）建築と推定。国重要文化財）と旧三田家長屋門（深沢2丁目。明治40年（1907）頃建築と推定）です。

これらの歴史を踏まえて、当民家園ではドジ、クラの2棟をつなげて長屋門とした天保9年の姿に復元しました。

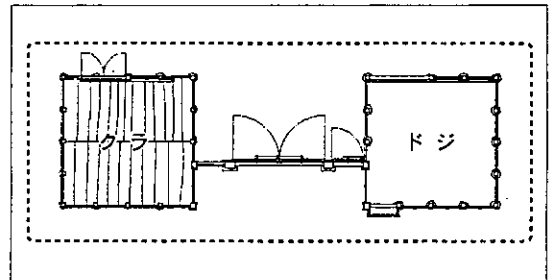


図1：旧谷岡家表門平面図

註1：江戸時代の村方3役の一つ。名主を補佐した。

註2：近世、村役人や苗字帯刀を許された家の門形式として認められたもの。扉脇の部屋は、下僕の居所または物置とされた。主構造は、椽梁を受ける冠木と2本の親柱で支えられ門戸と潜戸をつける。

註3：二つの部材を接合させるため、片方の端に造り出した突起。

註4：屋根の棟木を支えるための扱首という斜材の基部。

註5：部材の架構に便利のように各部材につけるしるし。縦横の通り芯で座標をとる組合せ番付が多く用いられる。

註6：柱または間柱に胴縁を水平にとりつけ、これに板を豎に打ち付けたもの。

註7：消石灰に砂、糊、芻などを水で練って塗る仕上げ。

註8：横板張りで板を下から少しずつ重ねて張る。